

2. 胸膜悪性中皮腫における osteopontin と mesothelin 発現の検討

石 田 卓（福島県立医科大学医学部呼吸器科学講座）

1. 研究の結果概要

当院で診断された胸膜悪性中皮腫症例12例（上皮型10例、混合型2例）について、生検で得られた組織を用いて免疫組織学的に発現の検討を行った。検討を行ったのは次の項目である。① osteopontin、② mesothelin、③ Ber-EP4、④ carletinin、⑤ CEA。

①と②に関してはそれぞれ陽性率が10例（83%）、9例（82%）と良好であり、今後の診断に有用であることが確認された。さらに③④⑤を組み合わせることで、感度92%、特異度94%の診断が可能になった。病期と染色性（陽性細胞比率と染色強度の積）には有意な関連はみられなかった。osteopontin と mesothelin の染色性はほぼ同様であったが、前者の方が安定した染色が可能であり、osteopontin の優位性が示唆された。

今回の検討においては染色のむらや固定や保存の状況により、判定保留となる検体があり、今後の検体処理の方法の改善（オートクレープ処理など）が必要であると考えられた。検体の多くが胸腔鏡下採取検体で、小さいことも問題であり、少ない検体量で検索ができるように今後方法を検討する必要がある。

さらに、保存血清を用いて血液中の osteopontin と mesothelin の濃度を測定できるように ELISA 法で系を確立すべく検討中であるが、現在のところ安定した測定法がまだ得られていないために、引き続き研究を続行中である。

2. 謝 辞

研究に助成をいただきました財団法人福島県労働保健センターに深く感謝申し上げます。